

# 福岡県八女郡黒木町方言の比喩語について

住田 幾子

## はじめに

### 1. 調査対象地

福岡県、筑後城の東南部に位置し、南は熊本県に接している。町の東部は山林地帯で、矢部川が町の東西を貫流している。西部は盆地型の平坦地で、町の行政・経済・教育の中心地となっている。人口は、16,616人(平成2年)である。町内で産するお茶・ぶどうなどは、県内でも有名な特産物となっている。交通は、バスが、JR羽犬塚駅前から出ている。また、町民の多くが、自家用車を利用している。

### 2. 調査年月日・時間

1992年12月24日 午後2時～4時10分

### 3. 話者

月足ツルヲ 明治39年10月生(86歳)

小川コノエ 明治40年4月生(85歳)

田島喜美子 大正10年1月生(71歳)

### 4. 調査者・調査場所

住田 幾子、小川コノエさん宅の居間

### 5. 調査方法・調査時の様子

予備調査を行なったところ、60歳代の女性一人と調査者だけとのやりとりでは、調査項目の回答が得られにくかった。そこで、本調査では、共通の話題を持った親しいもの同志が2名以上いて、世間話や昔の思い出話などを語らいながら答えてもらう方法をとることにした。年齢も、70才以上になっても仕方がないと判断した。

今回の調査では、土地っ子の田島睦子さん(黒木町役場勤務、大学の卒業論文で、黒木町方言の敬語法を研究した。)と祖母の喜美子さんに話者を選んでいただいた。月足・小川の両氏は、幼児からの友人同志で、現在なお、近くに住み、息のあった交友関係を保っている間柄である。調査者が調査用の絵カードを示しながら、調査票にしたがって尋ねる方法をとったが、田島喜美子さんが、終始、その場をとりもち、必要に応じて、話しあい、確認しあう役目を果たしてくださった。したがって、回答されたものは、三人の合意のあったものである。このほか、小川さんのご子息、田島睦子さんも同席し、調査の進行に協力いただいた。

## I 《自然現象》

- 1 日照り雨 \* (全員が話しあったが、日照り雨に当たる語は出なかった。)  
          <sup>ジュナン</sup>・<sup>ジュナン</sup>ビヨリ<名>  
          ○キョーワ <sup>ジュナン</sup>ビヨリ ナッタケンデー。  
          きょうは <sup>ジュナン</sup>びよりになったから……。  
          (秋、9月頃、小雨が降ったり晴れたりしてはっきりしない  
          時期を「ジュナン」という。)
- 2 入道雲 <sup>ニュード</sup>ーグモ<名>
- 3 旋風 <sup>タツマ</sup>キ<名>
- 4 霜柱 <sup>シモバシラ</sup><名>
- 5 つらら <sup>コーリン</sup>ボ<名>  
          <sup>ツズラ</sup><名>
- 6 北斗七星 \* (天の川の頃だろうと推測しつつ、呼び名は出なかった。)
- 7 昴 \* (3人で話しあったが、呼び名は出なかった。別語だが「アケ  
          <sup>ミョー</sup>ジョー」か、という声もあった。)
- 8 流れ星 <sup>ナガレ</sup>ボシ<名>

## II <動物>

- 9 かわはぎ <sup>カワハギ</sup><名>
- 10 ひらめ <sup>ヒラメ</sup><名>
- 11 ひきがえる <sup>オニワケ</sup>ド (大きな茶色の蛙) <名>  
          <sup>ワケ</sup>ド (茶色の蛙) <名>  
          <sup>タンガク</sup> (小さな青い蛙) <名>  
          <sup>ビキタン</sup> (青い蛙) <名>
- 12 青大将 <sup>エグチナワ</sup>・<sup>エーグチナワ</sup> (家に住み着いている蛇) <名>  
          <sup>クチナワ</sup> (小さな蛇) <名>
- 13 とかげ <sup>トカギリ</sup><名>  
          <sup>イモレ</sup> (腹が赤いもの) <名>
- 14 かまきり <sup>カマキリ</sup><名>  
          <sup>オガマニャト</sup>ーサン (別名。かまきりが前足を合わせているのが  
          まるで拝んでいるように見える。そのしぐさをしないと通さない  
          ぞ、という意でこう呼ぶ。) <名>
- 15 みずすまし <sup>ゲンゴロ</sup>ー<名>

- 16 きつつき キツツキ<名>  
 17 せきれい イシタタキタロベ<名>  
 18 ふくろう コース<名>  
 ○コース、コース、ハナクソ ク カ。  
 コーズ、コース。鼻糞を食うか。(鳴声が、このように聞こえ  
 ると言う。)

### III <植物>

- 19 馬鈴薯 ジャガイモ<名>  
 20 とうもろこし ト キビ<名>  
 21 いんげん豆 タッチャギマメ<名>  
 22 そら豆 ナツマメ<名>  
 23 木くらげ キクラゲナバ・キクラゲ<名>  
           ナバ (きのこ) <名>  
 24 げんのしょうこ ゲンノショーコ<名>  
 25 どくだみ ワグドグサ<名>  
           トベラグサ<名> (とても臭いからこう呼ぶと言う。)  
 26 いたどり ウマンギシギシ (馬のギシギシ) <名>  
 27 からすうり ゴ リンボ・ゴ リ<名>  
           (実が、霜焼けに良いという。)  
 28 すみれ スミレ<名>  
 29 春蘭 ジーサンパーサン (花の芯の部分が曲がった形をしている。それ  
           が、腰の曲がった爺さん婆さんのようだと言う。) <名>  
 30 母子草 \* (黄色の花で、葉はピロードのような感じの植物で、よく見か  
           けるが、名前は知らない。)  
 31 ねむの木 コ カンボ<名>  
           ネムリグサ<名>

### IV <性向>

- 32 熱しやすく冷めやすい人  
アキヤスノスキヤス<名>  
シリヤケド (職場など、長続きせずに転々と変わる人) <名>  
 ○アノ ヒトア スグ テ コツシエラス。

- あの人、すぐに退屈なさる。
- 33 あわてん坊 オロタエモン<名>  
オロタエヒョーガン<名>  
 ○オロタエヒョーガンノ アナイラス。  
 あわてん坊の(入る)穴はいらない。
- 34 動作の鈍い人 フーヌルカ<形>  
 ○フーヌルカー。アノ ヒタ。  
 もどかしいこと。あの方は。
- 35 噛つき スラゴツイー<名>
- 36 ほらふき ウダコツイー<名>  
 ○ウダコツバッカリ ユーテー。  
 大それたことばかり言って……。
- 37 おしゃべり チャンボンフキ<名>  
 ○チャンボンバッカリ ファイター イットキ ダマツトレー。  
 おしゃべりばかりして、しばらくだまってなさい。
- 38 冗談言ひ ヒョーグレモン<名>
- 39 口先だけの人 \*
- 40 とんちんかんなことを言う人  
 \*
- 41 のらりくらり煮えきらない人  
ニエキラン<動>  
 ○アノ ヒタ ニエキラッサン モン。  
 あの方は、煮えきらないもの。
- 42 怒りっぽい人 ○スグ ハラカク モン。  
 すぐにはらをたてるもの。
- 43 気むらな人 オテンキヤサン<名>
- 44 泣き虫 ナケベス<名>
- 45 おてんば娘 オテンバ<名>
- 46 腕白坊主 ワルソボーズ<名>
- 47 出しゃばり デシャバリ<名>
- 48 どこへでも顔を出す人  
デベソ<名>  
 ○ドコンデン ツラ サンコーデ。  
 どこにでも顔をさしこんで。
- 49 家にこもって外出しない人

ハンドガメ (据えてある水瓶のように動かない) <名>

○ハンドガメノ イゴキダシタケン アメン フッ。

水瓶が動きだしたから雨が降る。

- 50 小心者 キモンコマカ・キモンスコマカ
- 51 内弁慶 ウチマタガリノソトスポリ<名>
- 52 人づきあいをしらない人、社交性のない人
- \*
- 53 妻に対して頭の上がない男
- \*
- 54 けち ケチンボ<名>
- 55 欲張り ヨクトサレ<名>

V <<食生活>>

- 56 大食漢 タイショクニン<名>  
オーグライ<名>
- 57 ぼたもち オハギ<名>
- 58 砂糖味が薄い サトヤサンノトーカ  
○サトヤサンノトーカッタジャロー。  
砂糖屋さんが遠かったのだろう。
- 59 塩味が薄い シランモンニオータゴタツ (知らない者に会ったようだ。知らない人に会っても何も感じないことから、こう言う。)
- 60 大酒飲み オーザケクライ<名>
- 61 酒に酔ってくだをまく  
スイキョ<名>  
ナキズイキョ (泣き上戸) <名>  
ワライズイキョ (笑い上戸) <名>  
オコリズイキョ (怒り上戸) <名>
- 62 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま  
ベンケー<名>

VI <<動作・様態>>

- 63 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま  
ツラビノモユル (モユル=燃える)

- 64 どしゃ降りの雨 ダダブリシタ
- 65 ずぶ濡れ・びしょ濡れになる, そのさま  
ジュックリ ナッタ
- 66 服装がだらしないさま  
ガガリンチョンゴタッ (ガガリンチョのようだ)  
 ○ガガリンチョンゴトシテ キモン キテ。  
 ガガリンチョのようにして着物を着て。
- 67 髭がのび放題なさま  
ブショーヒゲ<名>
- 68 厚化粧をしている人  
シラカベンゴツ ヌツテ (白壁のように塗って)
- 69 背丈の高い人 ノッポ<名>
- 70 出びたい テブチン<名>
- 71 汗がひたいから流れ落ちる  
タキノヨーナ アシェン デタ (滝のような汗が出た)
- 72 目を丸くする メワ チョクンゴッシテ (目は盃のようにして)
- 73 口をとがらす クチバ トガラシエテ (口をとがらせて)
- 74 焦げ臭いにおい ヤケツキオロー ニオイ  
 ○ナンカ ヤケツキオロー。ヤケツキオロー ニオイノ スツ  
 何か焦げているのだろう。焦げているような匂いがする。
- 75 遠廻り(を)する トマワリシテ
- 76 末っ子 カガリアゲ<名>  
 ○モー アタシャ カガリアゲジャンケ デノ。  
 もう、私は最後のこどもだからね。  
スソゴ<名>
- 77 一生懸命頑張る ガマダス<動>

おわりに

語についての説明は、教示者のものを記した。

調査項目の6・7・30・39・40・52・53は、教示者が話しあったが、思い当る語がなかったものである。これらについては「\*」を付した。

『八女の方言』（内山一兄・郷田敏男共著 八女の方言研究会 1973）を参照した。

(すみだいくこ 梅光女学院大学)